

2021年2月20日（土） 国際交流推進委員会企画セミナー
「with コロナ時代の看護学教育における国際交流・連携の実際と課題」開催のご報告

<開催内容>

(1) 日時

2021年2月20日（土）13時～15時30分

(2) 方法

Zoom ミーティングによるオンライン配信

(3) テーマ

「with コロナ時代の看護学教育における国際交流・連携の実際と課題」

(4) 企画意図

2019年度に全国の新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となった企画を再考し、超少子高齢社会によって日本の大学の在り方が改めて問われる中で、今後看護系大学のグローバル化に向けてどのような方向性を目指せばよいのか、さらにはwith コロナ時代においても、具体的にどのようなことに取り組むべきなのかをディスカッションを通して考えることを目的とした。

(5) セミナー概要

本セミナーでは、看護学教育における国際交流・連携を活発に実施している3大学より、学部・大学院教育、海外留学生への教育における国際交流・連携の実際や課題、工夫点、with コロナ時代の課題についてご発表いただき、参加者の質問をもとにパネルディスカッションを行うことで、参加者が具体的な取り組みを考察する機会とした。プログラムの構成は、以下の通りである。

【第1部：講演】

講演1：学部教育における国際交流 ～九州大学の事例～

九州大学医学部保健学科看護学専攻統合基礎看護学講座 教授 橋口暢子氏

講演2：大学院教育における国際交流 ～慶應義塾大学の事例～

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科看護学専攻 大学院生 岩田真幸氏

慶應義塾大学看護医療学部 教授 深堀浩樹氏

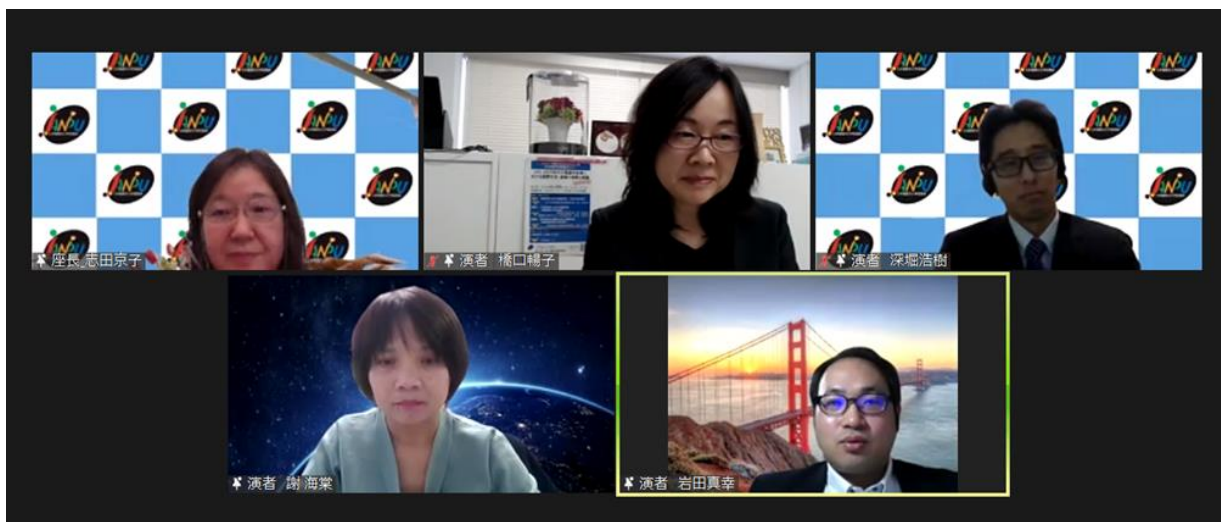
講演3：海外留学生の教育における国際交流 ～国際医療福祉大学の事例～

国際医療福祉大学保健医療学部看護学科 准教授 謝海棠氏

【第2部：パネルディスカッション】

パネラー：講演者4名、 座長：志田京子氏（国際交流推進委員）

(パネルディスカッションの様子 (写真))



※上段左から、志田京子氏 (本委員会委員・座長)、橋口暢子氏 (講演者)、深堀浩樹氏 (講演者)、
下段左から、謝海棠氏 (講演者)、岩田真幸氏 (講演者)

<参加人数およびアンケート結果>

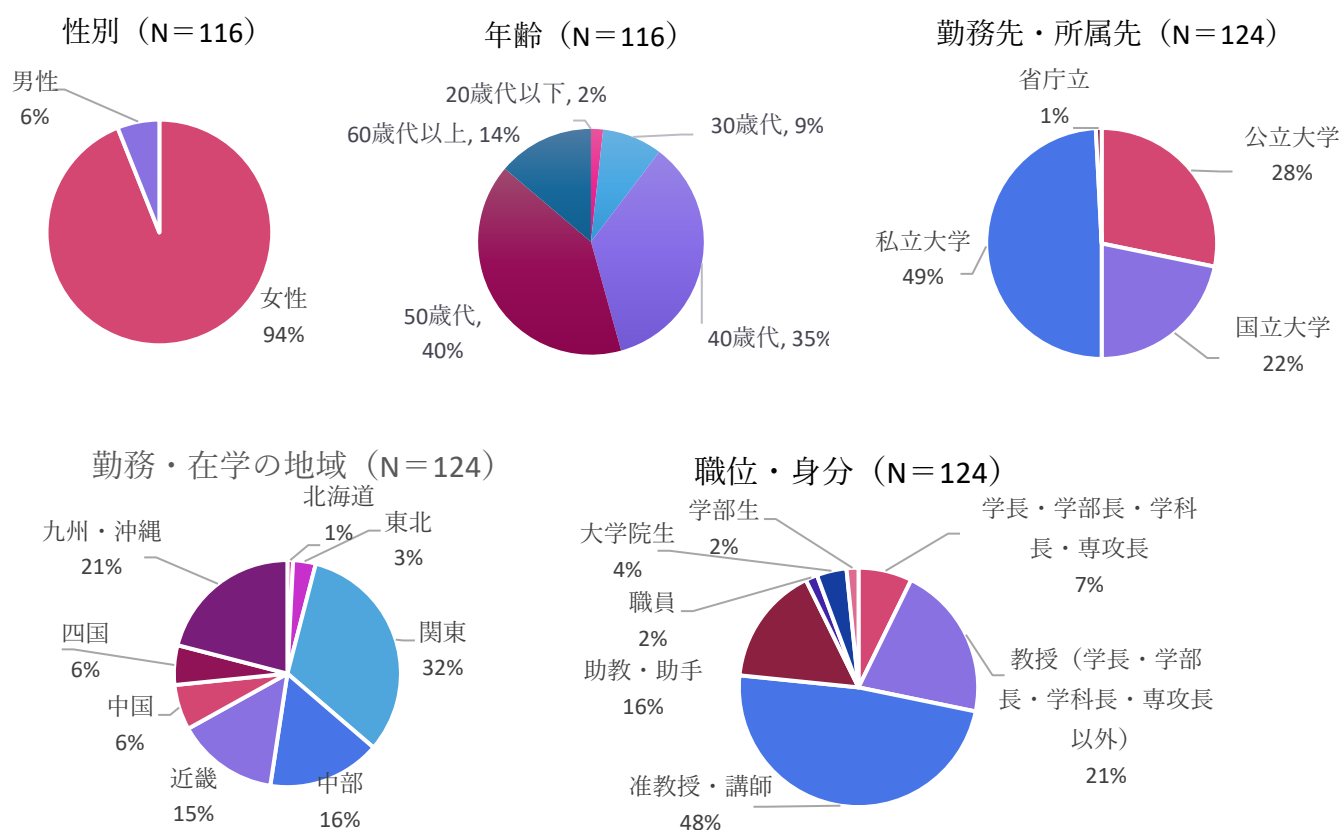
(1) 参加人数

事前の参加申し込み者数は 283 名であった。

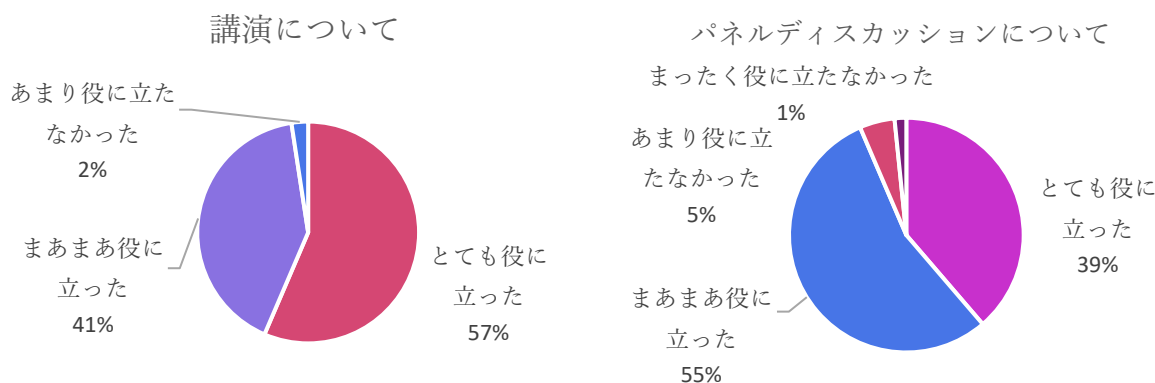
当日の参加人数は、209 名 (委員・事務局・講師の合計 14 名を除くと、195 名) であった。

(2) セミナー後アンケートの結果 (google form にて収集) : 回答者数 124 名

①回答者の属性 (n=124)



②セミナーの内容に対する評価(n=124)、およびその内容(n=88)



学部教育における国際交流に関して

学部の国際交流プログラムの具体的内容

学生の海外研修を進めるうえで、大学・学部としてのシステム作りに役立つ(危機管理体制・研修、遠隔交流、国際フォーラム、教員の巻き込み方・参加方法、等)

大学院教育における国際交流に関して

大学院生の交流・留学について具体的な情報を得られた(事前準備、経済的負担、実際の活動)

院生の育て方、バックにある大学としての方針決定・手立て準備の必要性

国外大学を巻き込んだ研究力強化

教員個人の研究を通じた人脈作りの必要性

大学院レベルでの国際交流では、やはりがベースになっていると感じ、改めて語学力や研究力が問われるのではないかと考えさせられた

海外留学生の教育における国際交流に関して

留学生教育について看護分野の状況が具体的に理解できた(受け入れ時の工夫、学修支援、ニーズへの対応、ロールモデルの必要性、等)

現状の留学生教育について自己評価に役立った

日本へ留学する学生のニーズや思考がわかり対応の参考とできる

COVID-19 禍/オンラインでの国際交流に関して

COVID-19 感染拡大状況での国際交流をどのように進めるかが具体的にわかった(オンライン時の工夫、メリット・デメリット、運営方法、等)

全体に関して

学部、大学院、留学生と多角的に国際交流のを知ることができた

他大学の実情を知り、国際交流の意味と課題とを考えることができた

③研修会を通して看護学教育のグローバル化に向けた目標や方策として考えるところ (n=71)

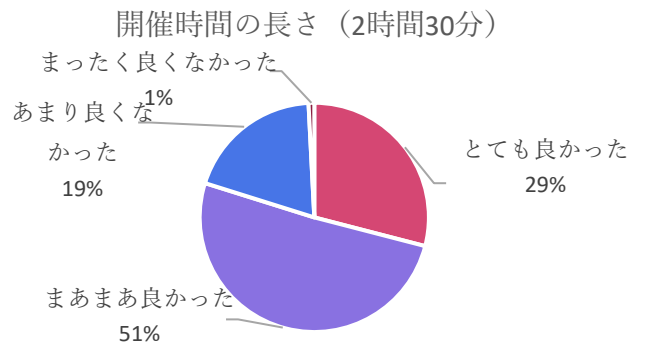
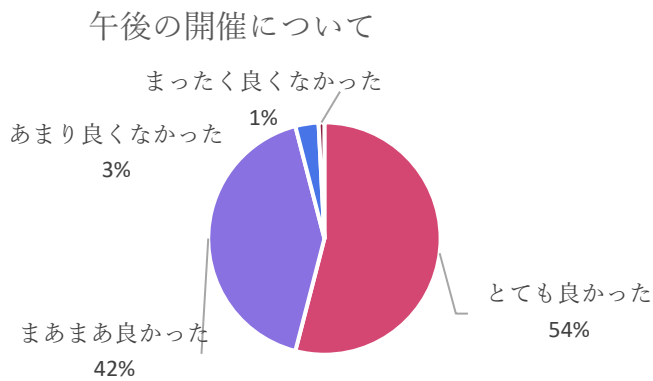
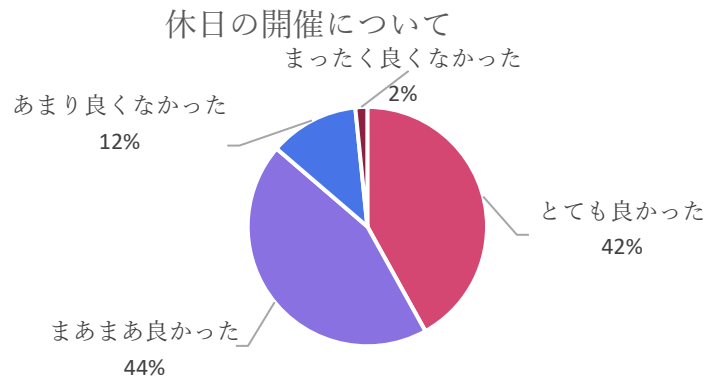
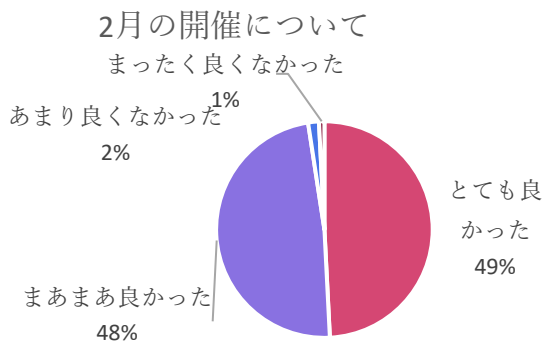
大学院での国際教育

大学院教育での国際交流の推進

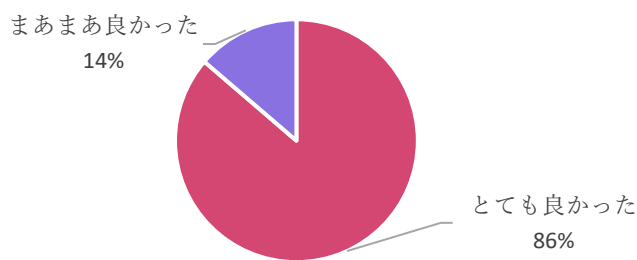
大学院教育において外国人教員を増やすための対策検討

留学生対応
留学生支援の基本について教員間で共通理解するためのパンフレット作成や、異文化紹介講義の実施、伝達講習、等
留学生(院生)へのサポートに対する視点を変えていくこと
留学生受け入れ・学修支援整備
留学生派遣・受け入れに対しての危機管理体制の確立、学生が留学生を支援するシステム作り
目標の明確化
国際交流・連携に対する大学としての具体的な方向性・目標を明確にすること
単なる語学研修にしてはいけない
学生の主体性を引き出し交流を本当に意味のあるものにする為の方法を考える必要がある
体制づくり
他の教員も巻き込んだ国際交流
国際交流委員会の体制を整備
国際交流に伴う危機管理のハンドブック作成と研修
教員間の情報共有、認識・意識づくり
教員全員が関わるという意識を持つように取り組む
学部の教員や経営者の意識改革・FD
自大学の留学・国際交流制度に関する情報収集
海外の大学との連携について、今回の情報を学内の国際交流委員会の中で共有する
ジェンダー問題等、国際感覚的なことに関心を持って感覚を磨く
海外の大学教員の招聘と交流のきっかけづくり
英語教育・教員の語学力/留学
教員の英語力を上げること(全教員に標準的な英語の語学力基準を課す、ネットアカデミーの利用、等)
学生の英語教育の見直し
若手教員の留学支援
大学を超えた留学支援システム
他文化理解を促進する教育プログラムの検討
英語論文への投稿努力
国際交流が国際共同研究に発展できるよう取り組みたい
COVID-19 禍/オンラインでの国際交流
オンラインでの海外研修プログラムの立案
海外(協定先大学等)とのリモートセッションを定期的にもつ
海外の看護系大学の研究者と共同研究ができるように、オンラインで交流
コロナ禍だからこそその国際交流のありかた検討
当面は地元でできる異文化理解教育の充実

④セミナー開催に対する評価 (n=124)



オンラインでの開催について



⑤大学のグローバル化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期 (n=49)

オンラインでの国際交流を確立・促進することに関する内容

コロナ禍におけるグローバル化について

国際交流における危機管理体制の確立に向けて

少子化や地域創生とグローバル化に関するセミナー

教員の国際交流促進のための支援に関する研修会企画
資金調達、インバウンドの際の費用
大学規模を特定した取り組みの情報共有(小規模、単科、私学、新設、等)
グローバル化に先進的な海外の大学の取り組みや意見交換の場
国際交流による研究の発展、共同研究の進め方
英語論文の発表や投稿に関する内容
看護系教員の留学を可能にするノウハウ
学部生の長期留学の実際と方法、成果
学生が参加できる国際オンラインセミナー
国際看護経験ある教員の人材活用
留学生受け入れの体制づくり
国内大学での共同国際交流プログラムの紹介
看護の学科長等を対象としたグローバル化の重要性と方法に関する研修
国際交流担当者のネットワーク構築
院生同士が自由につながるプラットフォームの構築
リアルタイムで相談ができる場があるとよい
国際看護・国際保健、災害看護・災害保健の教育内容や方法
より具体的な活動内容について共有したい、意見交換をしたい、等

<活動評価と今後の課題>

参加者へのアンケートでは、講演およびパネルディスカッションについて、とても/まあまあ役に立ったという回答が 98%と 90%を占めていた。役に立った内容としては、学部教育/大学院教育/留学生教育のいずれに対しても、他大学の状況がわかった、活動内容や工夫が参考になった、自大学の課題がわかったという記載があった。また、開催時期や方法については肯定的な意見が多く、特にオンラインでの開催に対してはほぼ 100%がよいと回答していた。今後期待する企画としては、今回のテーマの継続とともに、海外研究者との共同研究やオンラインセミナーの開催方法等、多様なニーズが記されていた。

研修会により COVID-19 感染拡大状況にあっても多くの会員/会員校が教育と研究に関する国際交流を継続・発展させようとしていることがわかり、これを促進・支援するため引き続き研修会等を企画していくことの必要性が示唆された。また、With/After コロナにおいて ICT を用いた新たな交流の在り方を検討することができるような支援が求められていると考えられた。

一般社団法人 日本看護系大学協議会
国際交流推進委員会委員長 宮本 千津子